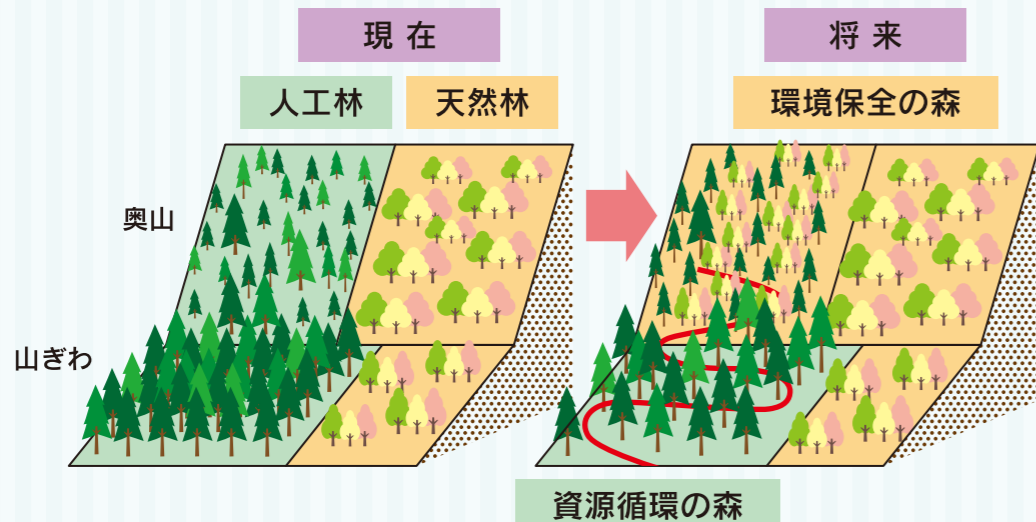


3 本県の森林・林業のすがた

森林・林業の概要

本県の森林面積は、約31万2千haで県土の75%を占め、全国の森林率67%と比較しても高くなっています。昭和40年代から本格的に造成された約12万haの人工林が、森林資源として利用可能な時期を迎える中、「ふくい」の森林・林業基本計画（平成27年3月策定）」に基づき、森林資源の有効活用と環境保全に配慮した持続可能な森づくりを進めています。

【福井県の目指すべき森林・林業の姿】



本県森林・林業の全国での位置づけ

項目	単位	福井県	全国	全国順位	資料		
森林面積(平成24年)	千ha	312	25,081	30	森林資源の現況(平成24年3月31日現在)		
森林率(平成24年)	%	75	67	11			
保安林指定率(平成25年)	%	48.4	48.3	15	森林・林業統計要覧より作成		
民有林	面積(平成24年)	千ha	273	17,407	27	森林資源の現況(平成24年3月31日現在)より作成	
	人工林	面積(平成24年)	千ha	118	7,962		33
		率(平成24年)	%	43	46		29
	蓄積(平成24年)	千m ³	38,077	2,574,559	30		
民有林(人工林)に占める若齢林(7齢級以下)の割合(平成24年)	%	31.4	22.9	6			
林家戸数(平成22年)	戸	13,827	906,805	29	世界農林業センサス		
林業産出額(平成26年)	千万円	156	44,777	41	生産林業所得統計		
生産林業所得(平成26年)	千万円	87	24,082	41			
素材生産量(平成26年)	千m ³	136	19,913	35	木材統計・県産材活用課調べ		
素材需要量※1(平成26年)	千m ³	144	25,582	38			
木材需要量※2(平成26年)	千m ³	200	-	-	県産材活用課調べ		
木材産業生産額(平成25年)	千万円	2,317	250,328	35	工業統計調査		

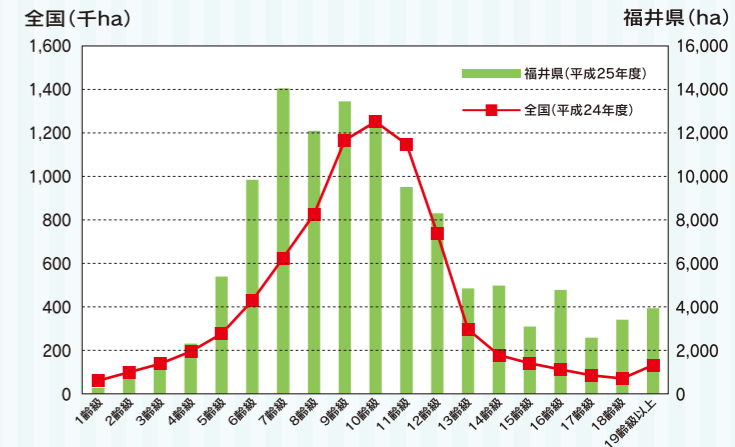
※1 素材需要量：製品(板、柱等)を含まない。
 ※2 木材需要量：製品(板、柱等)を含む。

林業・木材産業

本県の約12万haにおよぶ人工林は、間伐の必要な人工林(3~12齢級※)が8割を占めており、柱などに利用可能な人工林(10齢級以上)が全体の約半分まで増えています。

※齢級：樹木を年齢で区分することであり、1~5年生を1齢級、6~10年生を2齢級…とします。

【全国と福井県の民有林人工林の齢級別面積】



① 効率的な木材生産

山ぎわの人工林は、施業地の集約化と作業道の開設および高性能林業機械の導入を行うことにより、効率的に木材生産を行っています。

また、奥山の人工林は、列状間伐による木材生産の低コスト化と森林の針広混交林化・広葉樹林化を進めています。



高性能林業機械

列状間伐施業地



コミュニティ林業の推進

本県では、集落を単位とした新たな木材生産システムとして、森林所有者が協力し計画的に木材を生産する「コミュニティ林業」を推進しています。

平成22年度に10集落でスタートし、平成26年度は県内55集落で実施しています。

	平成22年度	平成26年度
コミュニティ林業実施集落	10	55
コミュニティ林業での年間県産材生産量(m ³)	600	20,371

コミュニティ林業による年間県産材生産量
 ※平成27年度から平成31年度は年間20集落ずつ設立

森づくりを担う人材の確保・育成

林業就業者を確保するため、県内外で就業相談会や林業体験会を実施するほか、平成28年度から設置するふくい林業カレッジにおいて、就業希望者を対象に森林・林業の専門知識・技術の研修を行います。

また、県外からのIターン者に対しては、就業後の給付金の支給も行っています。



集落座談会での説明会



現地立会いによる境界の確認



コミュニティ林業により整備された森林



相談会



現場研修

② 県産材のフル活用

住宅、店舗、公共施設等の木造・木質化に加え、マンション内装材やオフィス家具など新たな分野での活用等を図ることで県産材の利用を拡大します。



住宅・店舗の木造・木質化

マンションの内装材

民間施設のキッズルーム



木質バイオマスの利用推進

平成24年に再生可能エネルギーの固定価格買取制度が施行され、本県においても、大野市で木質バイオマス発電所が建設（平成28年4月稼働）されました。

これにより、これまで山に残さざるを得なかった林地残材の利用が可能となり、1本の木を余すことなく利用出来る環境が整います。

また、地域での熱利用を推進するため、農業用ハウス、温泉施設等での木質バイオマスボイラーや住宅、公共施設でのペレットストーブ、薪ストーブの導入を促進します。



木質バイオマス発電所（大野市）



農業ハウス用ペレットボイラー



木質ペレット

③ 里山ビジネスの創出・拡大

中山間地域の重要な地域資源の一つである特用林産物については、施設整備による生産拡大や香福茸（ジャンボしいたけ）や菊炭などの新たな品目の生産、越前オウレンや熊川くずなど全国に誇る伝統技術の継承を進めます。

また、林地残材や薪などを自伐林家自らが販売できる「山の市場」を整備するなど、新たなビジネスを創出します。



九頭竜まいたけ



越前オウレン



山の市場



里山トレイルの推進

幅広い年齢層を対象に、美しい里山の自然景観や歴史、文化を巡るトレイルコースを、県内に3箇所設定しています。

平成27年11月1日には、このコースの一部を活用した「朝倉トレイルラン2015」を開催し、県内外から多数（382名）のご参加をいただきました。

今後も、トレイルを活用した誘客を促進し、地域振興を図ります。



朝倉トレイルラン2015

スマートフォン用案内アプリ無料配信中



ふくいSatoyamaトレイル

検索

次代につながる森づくり

① 災害、獣害、病虫害に強い森づくり

荒廃地や災害の危険性の高い森林において、治山ダムなどの防災施設や間伐などの森林整備を一体的に実施しています。また、防災意識の高揚を図るため、治山現場見学会や山林保全監視モニター研修会を開催しています。

拡大しているニホンジカの森林被害対策については、猟友会と森林組合等が連携し、共同でニホンジカの捕獲活動と個体数調整を行うとともに、ニホンジカの侵入を防ぐ新型フレーム（県開発）の活用やアブラギリなどの不嗜好性樹木等の植栽により、植生を回復していきます。

松くい虫やナラ枯れについては、着実な防除を実施するとともに、抵抗性アカマツ（県開発）を活用した松くい虫被害地の復旧を進めていきます。



治山現場見学会



山林保全監視モニター研修会



ニホンジカの捕獲活動



抵抗性アカマツの植栽

② 緑と花の県民運動の推進

平成21年の全国植樹祭開催を契機に、緑と花の県民運動（県民が主体となって森林や木、花に関わる活動）を推進しています。特に、6月第1日曜日の「森づくりの日」に開催する中心的なイベントや、木を伐って使うことが元気の森づくりにつながることを普及する木づかい運動を強化していきます。また、平成30年に開催される福井しあわせ元気国体・大会に向け、花の拠点づくりや児童による花のスクールステイなど花によるおもてなしを推進していきます。



企業の森づくり



木工教室



花のスクールステイ



花の拠点づくり



緑と花の拠点「総合グリーンセンター」

総合グリーンセンターでは、花いっぱい運動の輪を全県下に広げるための中心的施設として、花の相談や各種講習会の開催などを行っています。

平成27年に熱帯展示温室を「花の展示温室」としてリニューアルしました。

新しくなった温室では、家庭や地域の花壇、庭づくりのヒントとなる様々なモデルガーデンを展示しており、花を年中楽しむことができます。



花の展示温室（通称 タマネギハウス）



花の寄せ植え体験